

全日本語りネットワーク

2010. 1. 25 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町5-11 JR 駅構内
桐生市市民活動推進センター

(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

ニュース

お待ちしております!! 「全日本語りの祭り in 新庄」

新庄実行委員長 佐藤栄一

祭りと雪の城下町 新庄は遠く近い

第10回という記念すべき今年の「全日本語りの祭り」を、わがふるさと新庄で開催いただくことになり、深く感謝を申し上げ、心から歓迎を申し上げます。

さて、新庄市は、東北のへそと呼ばれる山形県の内陸北部に位置し、東北の十字路として古くから交通の要衝の地でした。特に現在は、平成11年に新庄まで延伸された山形新幹線のターミナル駅として、東京とは最短3時間15分で結ばれるようになりました。江戸時代の初期、元和8年(1622) 常州松岡から、6万8千石余の禄高で転封されて新庄藩主となった戸沢氏が、新庄城を築き城下町を整備してから390年余となりますが、江戸時代末期の戊辰戦争では、戦乱に巻き込まれ、城はもとより城下一帯が焼き尽くされ、城址以外は街中にはほとんど藩政時代の面影は残っておりませんが、郊外には国指定のいくつかの史跡・文化財が残っております。

豊かな自然と多様な伝統文化が息づくまち

折り目正しく四季が訪れる新庄、今はすべて真っ白い雪の衣をまとっていますが、4月になると桃・梅・桜などが一度に咲き競い、北国の春を謳歌します。夏8月、昨年国の有形民俗文化財に指定された250余年前から続く伝統の「新庄まつり」が行われ、市民手作りの絢爛豪華な山車(やたい)が市民による祭り囃とともに街中を巡行します。そして「語りの祭り」が開催される秋10月、豊かな自然がもたらす多彩な食材が、先人から伝承されて来た美味しい郷土料理となって、

新庄ならではのおもてなしをいたします。

新庄駅を出て街中に足を進めると、5つの民話を見たり聞いたり出来る「民話とおり」があり、話の内容に応じたイラストやモニュメントが造られ、話を楽しめる工夫がしてあります。新庄では、民話は地域特性を持つ貴重な無形の文化遺産として、市の行政もその伝承・活用・保存に力を入れており、郷土学習・観光の複合施設として建設された「新庄ふるさと歴史センター」に「語りの部屋」を設置したり、本年度で24回目となった「みちのく民話まつり」は、当初から民話の会と行政の協働事業として取り組んでおります。

北国落ちで義経が通りぬけ、奥の細道で芭蕉が2泊し たまち

源流から海まで、山形県だけを流れる最上川は、新庄の南部を流れています。悲劇の武将義経が、兄頼朝の追っ手を逃れて平泉を目指した北国落ちで、庄内から最上川を船で遡上し新庄の本合海で上陸したのち、新庄の南部を通りぬけ、亀割峠を越えて隣接の最上町の瀬見温泉に落ちて行ったという話など、数多くの義経伝説が伝えられております。なお、ここが「語りの祭り」の宿泊地となります。その500年後、俳聖芭蕉が奥の細道の旅で新庄を訪れ2泊し、本合海から最上川を下ったその船中で「さみだれをあつめて早し最上川」の名句を完成させたとされております。

以上誠に簡単に新庄を紹介しましたが、実りの秋の10月、豊かな伝統と文化が今も息づく新庄に、語りを楽しむ全国の皆さんにお集まりいただき、楽しい思い出と沢山の成果をお土産にお帰りいただけるよう、開催地としての諸準備や当日のお手伝い・おもてなしに努めたいと張り切ってお待ちしております。